

(京都西南部)

- 1 所在地 京都市下京区西七条南西野町
  - 2 調査期間 一九八七年（昭62）一二月～一九八八年一月
  - 3 発掘機関 勲京都市埋蔵文化財研究所
  - 4 調査担当者 菅田 薫
  - 5 遺跡の種類 都城跡
  - 6 遺跡の年代 古墳時代～江戸時代
  - 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
- 本調査地は、平安京右京八条二坊八町のほぼ中央に位置し、平安京西市外町に推定される場所である。西市の調査では、一九七七年地下共同埋設溝の建設に伴う発掘調査が実施され、木簡の出土が報告されている。
- 今回の調査は、マンショングルーピング建設に伴う発掘調査であり、調査区は、基礎掘削の範囲に限られた。
- 調査地の層序は一〇層に大別でき、古墳時代から江戸時代にわたって遺構・遺物を確認した。このうち、第七層から第九層までが平安時代の整地層で、第七層からは一〇世紀前半、第八・九層からは、九世紀前半の遺物が出土した。また、板・杭などで粗く護岸した南北方向の溝と、この溝に直角に交わる東西方向の溝を検出し、西市外町の区画溝と推定される。

木簡は四点で、第八層より、多量の土師器・綠釉陶器などの土器類及び多数の木製品とともに出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「△油一升御明料」	91×18×3 033
(2) 「□□□□	(66)×20×3 019
(3) 「坂上殿□收〔東カ〕」	
・「□□十四年	
(4) 「□□鳥鳥〔鳥カ〕職職式式」	
・「□□成成成□□」	

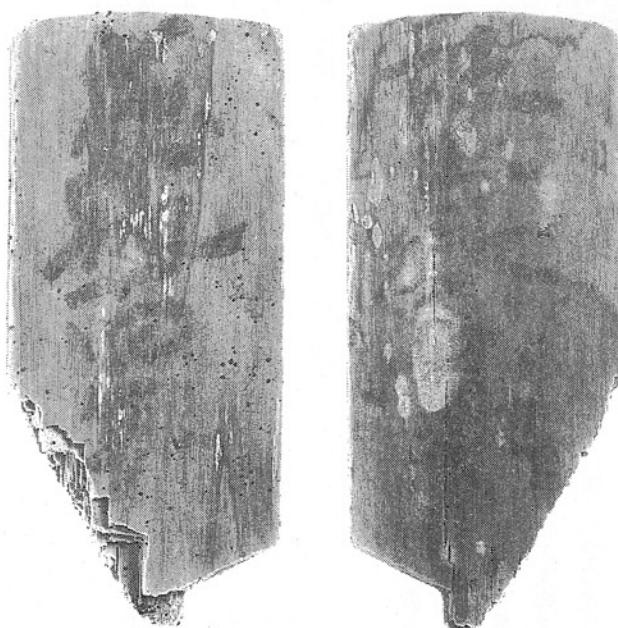
(78)×35×5 061  
304×35×5 065

(3)は題籤軸である。裏の「十四年」の上は年号かどうか判然しない。(4)の表面には黒漆が塗布されている。笏あるいは扇の未成品などの可能性が考えられる。

京都市文化観光局・勵京都市埋蔵文化財研究所『平安京跡発掘調査概報 昭和六三年度』(一九八九年)

木簡学会『木簡研究』創刊号(一九七九年)

(菅田 薫)



木 簡 (3)

卷頭言  
木 簡 研 究 第二号  
狩野 久

一九八八年出土の木簡

概要 平城京跡 平城京左京二条二坊十一・十四坪坪境小路  
跡 平城京左京二条四坊二坪 東大寺大仏殿廻廊西地区  
原宮跡 藤原京跡 長岡宮・京跡 長岡京跡 嵐峨院跡 (史  
跡大覺寺御所跡) 大坂城跡 東郷遺跡 吉田南遺跡 小犬  
丸遺跡 姫路城跡 (武家屋敷跡) 姫路城跡 (東部中濠)  
手遺跡 狩狹遺跡 山の神遺跡 池ヶ谷遺跡 瀬名遺跡 居  
村B遺跡 今小路西遺跡 (福祉センター用地) 中里遺跡  
中江田本郷遺跡 高溝遺跡 狐塚遺跡 仙台城二の丸跡 熊  
野田遺跡 一乗谷朝倉氏遺跡 三小牛ハバ遺跡 能登国分寺  
跡 発久遺跡 草戸千軒町遺跡 尾道遺跡 (G D 01 地点)  
糸屋町遺跡 下川津遺跡

一九七七年以前の木簡 (一一)

出雲国序跡

中国出土簡牘の保護研究

中国出土木・竹簡の保存科学的研究 (抄訳) 訳・佐川正敏

胡 繼高

木箱と文書

所謂『長屋王家木簡』の再検討

有韻尾字による固有名詞の表記

彙報

頒価 三八〇〇円 ￥四〇〇円

犬 飼

大山誠一 隆

小池伸彦

犬 飼

大山誠一 隆